

## 第10条 不正なプレー



### 定義

不正なプレーとは、競技規則の字義および精神に反する、競技場内でのプレーヤーの行動をいう。これには競技に悪影響を与える、妨害、不当なプレー、反則の繰り返し、危険なプレー、不行跡が含まれる。

#### 10.1 妨害

- (a) **チャージまたは、押すこと**：ボールに向かって走るいずれのプレーヤーも、同じくボールに向かって走る相手のプレーヤーも、互いに肩と肩で触れあう以外に相手をチャージし、または押してはならない。  
**罰**：ペナルティキック
- (b) **ボールキャリアーの前方を走ること**：いずれのプレーヤーも、味方のボールキャリアーの前方で故意に動く、または、故意にその前方に立つことによって、そのボールキャリアーに相手側がタックルするのを妨害したり、ボールを持つことがありうるプレーヤーが実際にボールを持ったときにタックルする機会を奪ってはならない。  
**罰**：ペナルティキック
- (c) **タックラーへの妨害**：いずれのプレーヤーも、故意に相手側のプレーヤーがボールキャリアーにタックルするのを妨害する位置へ動いたりまたはその位置に立ってはならない。  
**罰**：ペナルティキック
- (d) **ボールへの妨害**：いずれのプレーヤーも、故意に、相手側のプレーヤーがボールをプレーするのを妨害する位置へ動いたり、またはその位置に立ってはならない。  
**罰**：ペナルティキック
- (e) **ボールキャリアーが前方の味方プレーヤーのところへ走り込むこと**：いずれのプレーヤーも、故意に前方の味方プレーヤーのいるところと走り込んではいない。  
**罰**：ペナルティキック

### 10.2 不当なプレー

- (a) 故意に違反すること：プレーヤーは競技規則に故意に反則をしてはならない、また不正にプレーしてはならない。故意に違反するプレーヤーには、注意をするか、同様の違反や類似の違反を再び犯すならば退場となることを警告するか、ないしは退場させなければならない。

**罰：ペナルティキック**

もしその反則がなければトライが得られたであろうと思われる場合は、ペナルティトライを与えなければならない。不当なプレーでトライが得られるのを妨げるプレーヤーは警告し、かつ一時的退出を命ずるか、ないしは退場させなければならない。

- (b) 時間の空費：いずれのプレーヤーも、故意に時間を空費してはならない。

**罰：フリーキック**

- (c) タッチ等にボールを投げること：いずれのプレーヤーも、腕または手を使って、故意にボールをノック、または置き、または押し進めて、または投げて、タッチまたはタッチインゴールに入れるか、またはデッドボールラインの外へ出してはならない。

**罰：反則の起きた地点がタッチラインから15メートル以内にある時は、反則の起った地点に対向する15メートルライン上、それ以外のフィールドオブプレー内での場合は反則の起きた地点、インゴールの中の場合は反則の起った地点に対向するゴールラインから5メートルかつタッチラインから少なくとも15メートル離れた地点で、それぞれペナルティキック。**

もしその反則がなければトライが得られたであろうと思われる場合は、ペナルティトライを与えなければならない。

### 10.3 反則を繰り返すこと

- (a) 反則の繰り返し：いずれのプレーヤーも、競技規則のいずれにも繰り返し違反してはならない。反則を繰り返す場合には、繰り返す事実が問題であり、反則を意図しているかどうかは問題ではない。

**罰：ペナルティキック**

## 第10条 不正なプレー



そのような反則の繰り返しで罰を与えられたプレーヤーに対して、レフリーは警告するとともに、一時的退出を命ぜなければならない。また、そのプレーヤーが同様の反則や類似の反則を繰り返した場合には、そのプレーヤーを退場させなければならない。

- (b) **チームによる反則の繰り返し**：同一チームの複数のプレーヤーが同じ違反を繰り返す場合には、レフリーはそれが反則の繰り返しに相当するかどうかを決めなければならない。もし相当する場合には、チーム全体に対して注意を与えて、その後にもまた違反を繰り返した場合には、反則を犯したそのプレーヤーに警告を与えて、一時的退出を命じる。その後にもまた同じチームのプレーヤーが違反を繰り返した場合には、レフリーは反則を犯したそのプレーヤーに退場を命じる。

**罰：ペナルティキック**

反則によって、得点されうる可能性があったトライが妨げられた場合、ペナルティトライが与えられる。

- (c) **レフリーの適用基準**：「反則の繰り返し」に相当する反則の数を決めるにあたっては、レフリーは、代表試合や上級チームの試合には常に厳格な基準を適用し、三度目には警告を与えなければならない。

上記以外や未成年者の試合では、競技規則に対する無知と技術の未熟さにより反則が起ることがあるので、より寛大な基準を適用してもよい。

### 10.4 危険なプレー、不行跡

- (a) **殴打**：いずれのプレーヤーも、相手側プレーヤーを拳や腕、肘・肩・頭・膝を使って殴打してはならない。

**罰：ペナルティキック**

- (b) **踏みつけること**：いずれのプレーヤーも相手側プレーヤーを踏みつけてはならない。

**罰：ペナルティキック**

- (c) **蹴ること**：いずれのプレーヤーも相手側プレーヤーを蹴ってはならない。

**罰：ペナルティキック**

- (d) **足でつまずかせること**：いずれのプレーヤーも、相手側プレーヤーを足でつまずかせてはならない。

**罰：ペナルティキック**

## 第10条 不正なプレー



- (e) **危険なタックル**：いずれのプレーヤーも、相手側プレーヤーに早すぎるタックル、遅すぎるタックル、または危険なタックルをしてはならない。

**罰：ペナルティキック**

いずれのプレーヤーも、相手側プレーヤーの肩の線より上へタックル、あるいはタックルしようとするのは、たとえタックルが肩の線より下から入ったとしても、してはならない。相手の頸部、または頭部へのタックルは危険なプレーである。

**罰：ペナルティキック**

スティフアームタックルは危険なプレーである。スティフアームタックルとは腕を伸ばして相手側プレーヤーに打ち付けるようなタックルのことである。

**罰：ペナルティキック**

ボールを持っていないプレーヤーに対しプレーすることは、危険なプレーである。

**罰：ペナルティキック**

いずれのプレーヤーも、地面から両足が離れている相手側プレーヤーをタックルしてはならない。

**罰：ペナルティキック**

- (f) **ボールを持っていない相手側プレーヤーにプレーすること**：スクラム、ラック、モールの中にいる場合を除き、いずれのプレーヤーも、ボールを持っていない相手側プレーヤーを捕え、押し、または妨害してはならない。

**罰：ペナルティキック**

- (g) **危険なチャージ**：いずれのプレーヤーも、ボールを持っている相手側プレーヤーをつかもうとしないで、チャージしたり突き倒したりしてはならない。

**罰：ペナルティキック**

- (h) プレーヤーは、ラックまたはモールにチャージしてはならない。チャージには、腕を使っていない、または、プレーヤーをつかんでいない接触を含む。

- (i) **ジャンプしているプレーヤーへのタックル**：いずれのプレーヤーも、ラインアウトで、または空中のボールをとるためにジャンプしている相手側のプレーヤーにタックルしたり、片足または両足をはらったり、押したり、引っぱってはならない。

**罰：ペナルティキック**

## 第10条 不正なプレー



- (j) プレーヤーをグラウンドから持ち上げて落とす、または、両足がまだ地面から離れている相手プレーヤーを、頭および/または上半身から地面に接触するように落としたり力を加えたりするのは、危険なプレーである。

**罰：ペナルティキック**

- (k) **スクラム、ラック、モールでの危険なプレー**：スクラムでフロントローは、突進してスクラムを組んではならない。

**罰：ペナルティキック**

スクラムでフロントローは、故意に相手を宙に浮かせるか、または相手をスクラムから押し出してはならない。

**罰：ペナルティキック**

プレーヤーは、ラック・モール内の他のプレーヤーにバインドしようとせず、ラックまたはモールに突進してはならない。

**罰：ペナルティキック**

いずれのプレーヤーも、故意にスクラム、ラック、またはモールをくずしてはならない。

**罰：ペナルティキック**

- (l) **報復行為**：いずれのプレーヤーも、報復行為を加えてはならない。相手側が反則をしていても、相手側プレーヤーに危険ないかなる行為もしてはならない。

**罰：ペナルティキック**

- (m) **スポーツマンシップに反する行為**：プレーヤーは、競技場においては健全なスポーツマンシップの精神に反するようないかなることも行ってはならない。

**罰：ペナルティキック**

- (n) **競技が停止している間の不行跡**：いずれのプレーヤーも、競技が停止している間に、相手側プレーヤーに対し、不行跡を犯したり、妨害したり、その他いかなる方法でも相手の邪魔をしてはならない。

**罰：ペナルティキック**

第10条4(a)から(m)に関する罰と、同じ罰を与える。ただし、ペナルティキックは、次に競技が再開される予定の地点に与えられる。その地点がタッチライン上、またはタッチラインから15メートル以内にあるときは、反則の起った地点に対向する15メートルライン上の地点。

## 第10条 不正なプレー



反則がなかった場合の再開方法が、5メートルスクラムの場合には、ペナルティキックのマークは、スクラムの地点。

反則がなかった場合の再開方法が、ドロップアウトの場合には、反則をしなかった側は、22メートルライン上のいずれかの地点を選んでペナルティキックを行ってよい。

ペナルティキックが与えられ、キックを行う前に、反則した側のプレーヤーが、さらに不行跡の反則をしたとき、レフリーは、不行跡をしたプレーヤーに警告を与えるか、または退場を命じ、かつペナルティキックのマークを10メートル進める。これはもとの反則と不行跡の両方をつぐなうためである。

ペナルティキックが与えられ、キックを行う前に、キッカー側のプレーヤーが、さらに不行跡の反則をしたとき、レフリーは、不行跡をしたプレーヤーに警告を与えるか、退場を命じ、かつペナルティキックの無効を宣し、相手側にペナルティキックを与える。

ボールがまだプレーされている間に、競技区域外で起った反則で本条には含まれない反則に対しては、反則の起った地点に対向する15メートルライン上でペナルティキックを与える。

- (o) **キッカーに対するレイトチャージ**：いずれのプレーヤーも、まさにボールを蹴り終わった相手側プレーヤーを、故意にチャージまたは妨害してはならない。

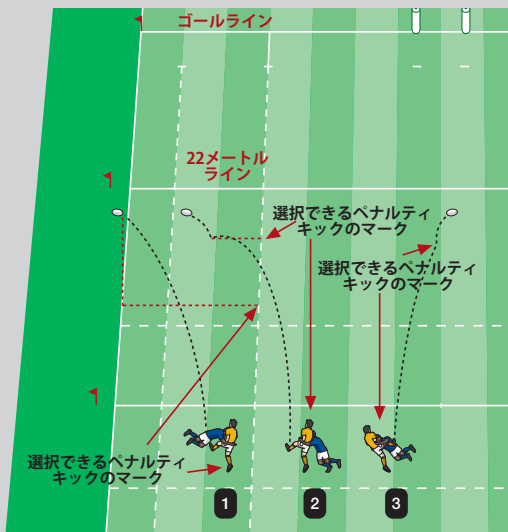
**罰**：ペナルティキック。マークは、反則をしなかった側の選択によって、反則の地点またはボールの落ちた地点。

**反則の地点**：反則の地点が、キッカー側のインゴールであれば、ペナルティキックは、実際に反則の起った地点に相對する、ゴールラインから5メートル、タッチラインから少なくとも15メートルの地点に与えられる。

違反をしなかったチームは、ボールが地面に落ちた地点、あるいは、落ちる前にプレーをした地点で、少なくともタッチラインから15メートルの地点で、ペナルティを選択することができる。

**ボールの着地点**：ボールがタッチに落ちたときは、選択できるペナルティキックのマークは、ボールがタッチに出た場所に対向する、15メートルライン上の地点。ボールがタッチラインから15メートル以内で落ちた、または、落ちる前にプレーがなされたときは、選択できるペナルティキックのマークは、ボールが落ちたまたはプレーされた場所に対向する、15メートルライン上の地点。

## 第10条 不正なプレー



キッカーに対するレイトチャージ

ボールがインゴール、タッチインゴール、またはデッドボールラインを越えまたは、デッドボールラインの上に落ちたときは、選択できるペナルティキックのマークは、ボールがゴールラインを越えた場所に対向する、ゴールラインから5メートル、タッチラインから少なくとも15メートルの地点。

ボールがゴールポストかクロスバーにあたった場合には、選択できるペナルティキックのマークは、ボールが地面に落ちた地点。

## 第10条 不正なプレー



- (p) **フライング・ウェッジ、キャバルリー・チャージ**：いずれのチームも、これらを使用してはならない。

**罰**：反則の地点においてペナルティキック。

「**フライング・ウェッジ**」通常は相手ゴールライン近くで攻撃側にペナルティキックまたはフリーキックが与えられた時に行われる。

タップキックを行ったプレーヤーまたはショートパスを受け取ったプレーヤーがゴールラインへ突進する。直ちに、その両側を味方プレーヤーがウェッジの形にバインドする。しばしばこれらのプレーヤーがボールキャリアーの前方に位置することが多く、競技規則に反する。

**罰**：反則の地点においてペナルティキック。

「**キャバルリー・チャージ**」通常は相手ゴールライン近くで攻撃側にペナルティキックまたはフリーキックが与えられた時に行われる。攻撃側の1人のプレーヤーがキッカーの後方に少し離れて立つ、または、攻撃側の複数のプレーヤーがフィールドを横断するラインを形成して、キッカーの後方に少し離れて立つ。

攻撃側のプレーヤーはキッカーの後方で互いに通例1~2メートルの間隔を開けて並ぶ。キッカーの合図で前方に突進する。キッカーはこれらのプレーヤーが自分に近づいてからタップキックを行い、キッカーの後方からスタートを切ったプレーヤーにパスする。

**罰**：反則の地点においてペナルティキック。

- (q) アドバンテージが適用されることもあるが、その反則がほぼ間違いなくトライを得ることを妨げたと認めるときは、ペナルティトライを与えなければならない。
- (r) アシスタントレフリーより報告された違反に対しては、違反の起った地点においてペナルティキックを与えるか、またはアドバンテージを適用する。
- (s) すべてのプレーヤーは、レフリーの権限を尊重しなければならない。また、レフリーの決定に反論してはならない。キックオフ、あるいは、注意、一時的退出または退場の後のペナルティキックの場合を除き、プレーヤーは、レフリーが笛を吹いた場合には、直ちにプレーを停止しなければならない。

**罰**：ペナルティキック。

## 第10条 不正なプレー



### 10.5 措置

- (a) いかなるプレーヤーも、不正なプレーに関する競技規則の反則を犯した場合、注意、警告による10分間の一時的退出、または退場のいずれかを命じられる。
- (b) 警告による一時的退出を命じられたプレーヤーが、本条の警告に相当する2度目の反則を行った場合は、退場を命じられる。

### 10.6 イエローカードとレッドカード

- (a) 国の代表で行われる試合において、レフリーは、警告し一時的退出を命じたプレーヤーに対しては、イエローカードを示す。
- (b) 国の代表で行われる試合において、レフリーは、退場を命じたプレーヤーに対しては、レッドカードを示す。
- (c) その他の試合に関しては、試合主催者または協会がイエローカードとレッドカードを使用するかどうかを決定するものとする。

### 10.7 退場を命じられたプレーヤー

退場を命じられたプレーヤーは競技を続けることはできない。